



二〇一七 春号

海禅寺新聞

Vol.13



海禅寺新聞 第13号

暦の上では春を迎え、寒さの中にもその訪れを感じる今日この頃です。

さて、海禅寺新聞は発行を始めてから早いもので4年目を迎えます。これからも皆さまの海禅寺が、よりよい姿であることを目指し、この誌面を通じて様々な発信を続けて参ります。

生きる力 vol.88 送付

真言宗智山派で、檀信徒の皆さまに向けて作成をしている情報誌『生きる力』をお送りいたします。特集には真言宗の教えが分かりやすく解説された内容が掲載されています。その他にも日常にお役立ていただける話題が盛りだくさんです。ぜひ一読ください。

春彼岸会 中日法要のご案内

恒例の春彼岸会法要を海禅寺本堂でお勤めいたします。どうぞご家族そろって出かけください。(申込不要)

日程：平成29年3月20日(月・祝)
時間：受付 午前10時
法要 午前10時30分～

※法要終了後は、皆さんで茶話会をいたします。和やかな時間を一緒にしましょう。
※副住職が認定NPO法人「新田の風」にお

いてメンバーと共に作成をした、エンディングノート『人生のしまい方』をご紹介します。ご希望の方は購入もしていただけます。(1冊500円)

※彼岸会中日法要の供養塔婆をご希望の方は、彼岸の入り16日(木) 夕刻までに電話またはファックスで、寺にお申し込みください。(供養塔婆料 一基3000円)



電話 0268-2212972
ファックス 0268-261147

予告映画 妻の病「上映会

「安心して老いを迎えることができる町作り」を目標に活動している認定NPO法人「新田の風」による映画上映会のお知らせです。今回は『毎日アルツハイマー』という今話題の作品が上映されます。以下、映画の公式ホームページよりの抜粋です。

21世紀の日本は、人口の22%が、65歳以上という超高齢社会に突入しました。介護の問題は、もはや他人事ではありません。そして、介護の中でも依然、垣根が高く、あまりオープンにされないのが、認知症の介護。認知症の患者数は年々増え続け、このままいけば2030年には330万人を突破するだろうと言われています。

2010年、アルツハイマー病であると診断された母と過ごす毎日を、2年半にわたって撮影した動画がYouTube(インターネット無料動画サイト)に登場。介護に悩む人や医者、医療従事者など多くの人々の共感を呼び、累計の視聴数はなんと30万回！
100時間以上にわたり撮影した記録を、母の〈喜怒哀楽〉を通して描いた関口

祐加監督の最新劇場版・長編動画『毎日がアルツハイマー』が完成しました。
『毎アル』な母と家族の暮らしは、笑って、怒って、泣いて、そしてまた笑う、まるでコメディのような世界です。

アルツハイマーの世界を通して、家族のあり方、更には、人間の尊厳とは何かを問う、渾身の『長編動画』がここに誕生しました！

日程：平成29年3月20日(月・祝)
時間：午後1時30分～(開場1時)
料金：500円

会場：上田映劇(上田市中心2-12-30)
主催：認定NPO法人「新田の風」

※詳しい内容については、寺にチラシがございますので、ご希望の方はお申し出ください。
※申込みは不要ですが、人数把握と会場準備の都合上、事前に寺までお知らせいただければ幸いです。

予告やさしい仏教の勉強会

仏教さんコンニチワ



どなたでも参加できる、やさしい仏教の勉強会を始めます。仏教とは机上で「学ぶ」というより、自分の人生で活かしてこそ、始めて意味を持つものです。この会では、「仏教を考える」ことをテーマに、皆さんでその意味を考えていきたいと思います。また数珠の意味や、お焼香の仕方など、仏事に関する素朴な疑問にもお答えしていきたいと思えます。ぜひお気軽にご参加ください。

日程：平成29年3月18日(土)

時間：午後2時～午後4時

料金：200円(お茶・資料代として)
申込：電話またはファックスで、寺にお申し込みください。

海禅寺数珠つなぎ

海禅寺にかかわる皆さんの声を、お数珠のようにつなげ、ご紹介していきます

檀家総代 宮島 照彦さん 一人目

記念すべき第1回目は日々寺と檀信徒の皆さんのために、様々な調整役をして下さっている宮島照彦総代さんです。

空海・遍路

空海、とてつもない超がいくつ付いても余りある偉人ですね。

わが真言宗のスタートの大々先輩で恐れ多いことですが、親しみを込めて空海と呼ばせてもらいます。勝手な想像ですが、空は宇宙、海は地球だと思います。海は生命の起源のところですか。こんな壮大な名前は他には無いでしょう。名前に劣らずその能力も書は達筆、文章はうまい、文章で人を動かす名人、そして大きな包容力、雑多な全てのものを受け入れる懐の深さ、これらで民衆の心をつかんだことは想像に難くありません。

三十歳頃、遣唐使船で今の中国へ渡り、唐で一番といわれる惠果和尚の直弟子になります。勉強の期間は二十年でしたが、二年経った時、惠果和尚に「私の持つているものは全て空海に伝えた。もう教えることは無い」と言われ日本へ帰り、学んだことを高野山で真言宗として開山したので

一昨年昨年と三回に分けて、副住職を先達として六人で四国遍路を行いました。空海は修行より、あちこち歩き回って人々のために尽くすことを心掛け、寡雨の瀬戸内海側の農業用ため池の大改修など、四国各



地で多くの業績を残しています。

印象に残る二寺。三十七番岩本寺（高知県）前任職が改築した本堂の格天井が素晴らしい。（左写真 花・動物・風景などいろいろの絵があり、中にマリリンモンローの絵があつたのです。般若心経を唱えるお遍路さんに彼女が微笑みかけてくれるのです。この五七五枚の天井絵は空海の「全てものを包み込む」原点を見る思いと、空海の思想が現代に受け継がれている証と嬉しくなりました。副住職が大学院時代の先輩であつたことから、夕食には特別のお接待をいただきました。

八十六番志度寺（香川県）。古くは

死度寺であつたと言います。もともと遍路の白衣は死装束です。お遍路が途中で倒れて死んでも、土地の人に葬ってもらえる。空海と同行二人（どうぎょうにん）なので、修行の道もあと二寺、最後の力を出す人も力尽きる人、寺の名前も意味深長です。この寺の住職はお医者で、寺の隣に「ポタラ診療所」がありました。（ポタラはチベット仏教のダライ・ラマ法王のポタラ宮を指している）。寺を去る時、少し体の不自由な人がアメの小袋をお接待してくれました。



八十八ヶ寺結願のあと、高野山奥之院にお礼詣りをしました。即身成仏した空海は今も存在していると言われている、毎日食事や運ばれているのです。空海の偉大さとロマンを感じた遍路でした。



おねがい

第6回 聖天祭 開催決定

寺に多くの人が集って欲しいと願い企画を始めた聖天祭は、今年で6回目となります。今年も聖天さんに手を合わせていただく時間と、門前市「まんだらマーケット」や音楽の演奏をはじめ、さまざまな企画を準備中です。

今、実行委員会では、お祭りをお手伝いいただける方を大募集中です。仕事の内容は、会場準備片付け・駐車場係・会場案内見回りなどですが、ご無理のない可能なお時間の範囲で構いません。お祭りを作り上げる喜びを共有していただき、お檀家の皆さん同士、よい仲間の輪がお祭り以後も広がっていくことを願っております。ぜひお気軽にお問い合わせください。
※お祭り終了後、別日に慰労会もごさいます。
※詳しいお祭りのご案内は、詳細が決まり次第、追ってご案内いたします

【聖天祭詳細】
日程：平成29年5月21日（日）
時間：午前10時～午後3時
入場：無料

スタッフ体験談

聖天祭のスタッフに参加して

竹内 晴美さん



5月に開催される聖天祭も今年で6回目になります。毎年恒例になってきました。私の父が1回目より実行委員になり「海禅寺さんがお祭りのスタッフを募集しているが、参加するか？」と言われ、『お祭り』楽しそう』という単純な理由で参加しました。



私はフリーマーケットの受付を担当しています。1回目は特に初めてだったので、お祭りは楽しかったけれど緊張もありました。お祭りが終わり、少しホッとしていた時、フリーマーケットの出店者の方達が受付に来てくれて「本当に楽しかった」「すごく良いお祭りを企画してくれてありがとう」「来年も参加したいのでお願いします」「等々、たくさんの方の言葉をかけてくれて、疲れも吹っ飛びました。毎回、嬉しい言葉が増えて行くのです。友人、知人にも声をかけて、皆、1回目から来てくれているのですが「楽しいお祭りを教えてくれてありがとう」と毎年来て、楽しんでくれています。スタッフも毎回、反省会でいろいろなアイディアを出し合い、昨年は実行委員で、かき氷を出店しました。これが大盛況で、行列になり、途中で用意していた氷とシロップが終わり、買いに行くという嬉しいハプニングもありながらも、スタッフもお祭りを楽しんでいきます。



1年に1回、この聖天祭で海禅寺さんの清らかなパワーを浴びながらお祭りのお手伝い出来る喜びに感謝です。回を増すごとにお祭りの規模も大きくなって来ました。聖天祭のお手伝いをしてくれる方が増えて、スタッフの楽しさをもっとたくさんの方達と共有出来れば嬉しいですね。このお祭りでも、普段は閉じている聖天堂が開きます。聖天さん、十一面観音さんを近くでお参りして、ご利益をいただけます。今年も楽しいお祭りになりますように。



4年前、1年間毎月東京へ通い「未来の住職塾」という講座を受ける機会に恵まれました。これはお寺の「これからの100年」を切り開くため、お寺の運営について学ぶ場でした。「お寺の運営」といってもそれは単に寺院活性化や経済力向上を目指すものではありません。そこでは、今までお寺が人や社会に対して生み出してきた価値を再評価し、足りないものは補い、良きものにはさらに磨きをかけ、新しいものは創造することを教わります。そしてお寺が行う様々な行事や取り組みを体系的に整理し、一つのビジョンに統合した上で、具体的な行動に移し、実践していくことを学びました。

この歩みの中で、まず海禅寺の存在意義とも言うべき『使命』を決めました。

☆海禅寺の使命

「あらゆる繋がりを大切にし、有縁の皆さんの求め一つ一つに丁寧にお応えしていくこと（寺が搾取者に陥っていないか、縁ある方々にとって公益性のある存在であるかを常に自己検証しながら）」
そして具体的に実現したい姿として、ビジョンを3つ決めました。

☆海禅寺のビジョン

- ① 檀信徒さんとの温かい良好な関係
- ② 地域の縁が活性化する起点の一つとなっていく
- ③ 未来の社会を担う子どもたちの、よりよい

人生の始発駅に（主に芙蓉保育園の運営を通じて）
まだまだ道半ばではありますが、檀信徒の皆さまのお力をお借りし、皆さんの海禅寺が、皆さんにとってより意味ある存在であるよう、引き続き努力を重ねて参ります。ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。（副住職）



発行元 海禅寺